

国の紹介



エチオピアは、「アフリカの角」と呼ばれる地域に位置し、豊かな歴史と多様な文化、そして美しい風景を有する国です。世界で最も古い歴史を持つ国の1つであり、「ルーシー」と命名された初期人類（アウストラロピテクス・アファレンシス）等の化石が発見されたことで、人類文明揺籃の地と考えられています。またエチオピアは、短期間イタリアに占領された時期を除けば、植民地時代に独立を維持したアフリカ唯一の国という意味でも特別な国です。

エチオピアには 80 を超える民族と言語が存在し、公用語としてアムハラ語が使われています。ラリベラの岩窟教会群、アクスム王国の遺跡、ゴンダールにある中世の城郭跡といった、いにしへの歴史的遺産も有名です。地理的には、高地、グレート・リフト・バレー（大地溝帯）、そして世界で最も暑い場所の1つであるダナキル低地など、変化に富んだ地形が特徴です。

エチオピアは、コーヒー発祥の地としても有名です。宗教的には、主にエチオピア正教とイスラム教が信仰されています。首都アディスアベバには、アフリカ連合（AU）の本部が置かれています。現在、農業、コーヒー輸出、インフラ開発の進展により急速に経済が発展しています。

です。アディスアベバに建設された 200 ヘクタールの広さを誇る ICT に特化した工業団地には、世界水準のインフラと、複雑な手間をかけることなくスムーズに投資ができる環境が整っています。近年の通信セクターの技術革新により、ICT 分野はさらなる発展を遂げ、国際的な事業者の参入やビジネスチャンスの拡大につながっています。

鉱業：鉱業はエチオピアで最も急成長している経済セクターの1つで、2020年に成長率 91% を達成したのに続き、2021年には成長率 115% を記録しました。このセクターの急速な拡大のおかげで、鉱業部門の GDP への貢献が大幅に増加しました。

エネルギー：エチオピアでは電力需要が急速に増加しており、年間 30～35% の伸びを見せています。これは特に産業部門での需要増加によるもので、2013年には 44 億 kWh だった電力消費量は、2012年から2030年までに年間平均 11.6% のスピードで増加し、2030年には推定 314 億 kWh に達すると予測されています。



©Expo 2025

© Japan Association for the 2025 World Exposition. All rights reserved.

The text and images such as photos and illustrations are used under an agreement with Ethiopia.

COMMONS-B PAVILION

ETHIOPIA PAVILION

エチオピア館



エチオピア 起源と機会の国

エチオピア概要

正式名称： エチオピア連邦民主共和国

位置： 「アフリカの角」地域

面積： 110 万平方キロメートル

統治体制： 11 の州（準自治区）と2つの憲章都市（自治区）の連邦制

議院内閣制： 国家元首（大統領）タイエ・アスケセラシエ・アムデ
行政府の長（首相）アビー・アハメド

GDP： 1630 億 3500 万 US ドル

GDP 成長率：10%

外国直接投資伸び率：平均 3.65%

人口： 1 億 2900 万人（アフリカ第2位）

平均寿命： 68 歳

エチオピアのグリーンレガシーと文化遺産

グリーン・レガシー：エチオピアは「グリーン・レガシー」イニシアチブを成功させ、環境保全の分野で世界をリードする立場となりました。これは、2019 年にアビー・アハメド首相の主導により始まった取り組みで、2050 年までの二酸化炭素排出ゼロという目標を掲げ、森林減少や土壌劣化を食い止めるための活動を行いながら、森林被覆率向上及び気候変動の緩和を目指すものです。過去 4 年間で、エチオピア国内に 200 億本以上の樹木が植樹され、持続可能性目標に向けて目覚ましい前進を遂げています。

観光再活性化：これは、エチオピアの観光セクターを変革する重要な一歩となる取り組みです。最近の進展としては、コイシャのハララケラ・ロッジやチェベラ・チャーチュラ国立公園内のエレファント・ロッジなど、主要な観光施設の開設が挙げられます。これらのプロジェクトは、すべての人にエチオピア旅行を楽しんでもらうためのインクルーシブ・ツーリズムや持続可能な開発に対するエチオピア政府のコミットメントを示すものです。

MICE ツーリズム：「回廊開発プロジェクト」は、持続可能性の促進と都市生活の向上に向けて、首都アディスアベバをより清潔で緑豊かな都市に変えていこうというプロジェクトです。徒歩、自転車、公共交通機関の利用を奨励し、自動車への依存を減らして大気汚染を削減するとともに、活気ある公共空間を創出することを目指しています。

起源と驚異の国エチオピア：エチオピアは、人類揺籃の地、コーヒー発祥の地、そして雄大な青ナイルの水源の地として知られています。豊かな自然と文化遺産を有し、旅行者にとって魅力的な目的地となっています。

アラビカコーヒーの起源：エチオピアは、世界で最も愛されている嗜好品 1 つ、アラビカコーヒーの発祥地です。世界のコーヒー文化に大きな貢献をしたエチオピアのコーヒーは、観光の振興や人々の結束の強化、経済成長においても

非常に重要な役割を果たしています。コーヒー栽培農家からコーヒー輸出業者に至るまで、コーヒーはエチオピアの社会的・経済的および文化的アイデンティティの核となっています。

エチオピア：投資の最適地

エチオピアは、魅力的な投資機会も提供しており、それを支えるのが次のようなビジネス環境です。

大胆な政策：政府は経済成長を促進するための改革を通じて、ビジネスに有利な環境整備を優先的に進めています。

強靱な経済：エチオピアは過去 15 年間にわたり、アフリカでもっとも急速に経済成長を遂げた国の 1 つであり、外国からの直接投資先としてトップクラスの人気を誇っています。

他の市場との結びつき：アフリカで 2 番目に大きな消費市場であるエチオピアは、地域内貿易のみならず世界貿易への玄関口として機能しています。

ビジネスに有利なインフラ：重要なインフラ開発が進められており、投資家にとってのアクセスの良さや効率性が向上しています。

豊富な資源：エチオピアは豊富な天然資源を有し、採掘や商業化に関しても現代的な法的枠組みが整っています。

競争力のある労働力：エチオピアは 5600 万人の労働人口を抱えており、アフリカで 2 番目に多い人口、若い年齢層、かつ生産性の高い労働力を提供することができます。



農業大国と製造業の拠点

エチオピアの基盤である農業：エチオピアは主要な農業大国であり、いろいろな農作物が世界の生産量・輸出量ランキングで上位に位置づけられています。例えば、ニジェール（ニガー）シードは生産量・輸出量とも世界第 1 位、コーヒー生産量は世界第 5 位、小麦生産量はアフリカ第 3 位、トロピカルフルーツ生産量は世界第 5 位、家畜頭数は世界第 6 位、ゴマ生産量は世界第 9 位、鶏肉生産量はアフリカ第 9 位となっています。

製造業：エチオピアは、大きな国内市場、比較的安価なエネルギーコスト、投資を歓迎する環境、競争力のある労働コスト、強力な貿易関係を背景に、製造業に大きなビジネスチャンスを提供しています。主要な貿易ルートに沿って経済特区も設置され、製造業にとってさらに魅力ある市場となっています。熟練で費用対効果の高い労働力を活用して、繊維製品、アパレル製品、革製品などの軽工業で卓越した業績をあげており、グローバル・バリューチェーンにおける戦略的パートナーとしての地位を確立しています。



新興ICT拠点、鉱業の成長、エネルギー拡大

ICT（情報通信技術）：エチオピアは、ICT 関連ビジネスの拠点としても急成長しており、技術に精通した有能な労働者を多数擁しています。世界でも最低水準の電力・不動産コストも、エチオピアが ICT 投資に最適な場所である所以